

明治学院 プラチナカレッジ

2026年度
第3シリーズ



キリスト教と芸術

宗教において祈りは、人と神との交わりを表す中心的な行為です。その内面的体験は古来多くの芸術表現を生み出してきました。キリスト教においても、芸術は個々人の祈りや思いを言葉、音、色と形に映して共有できるものにする役割を担ってきました。このシリーズでは、キリスト教の祈り、信仰が文学、音楽、美術にどう造形されているかを具体的な作品の中を探っていきます。

※第2回は明治学院チャペルを会場に、オルガニストによるレクチャーコンサートを行います。

10/9
[fri]



小説の中の クリスチャン

～日本社会にキリスト教がなじむまで～

篠崎 美生子

(本学 教養教育センター教授・博士[文学])

愛媛県出身。専門は日本近現代文学。恵泉女学院大学教授を経て、2018年から明治学院大学教授。単著に『弱い「内面」の陥穽：芥川龍之介から見た日本近代文学』（翰林書房、2017）、共著多数。近年は主に長崎の原爆と文学について研究中、大学では「広島・長崎講座」も担当。

10/16
[fri]



パイプオルガンと 声で紡ぐキリスト教音楽

長谷川 美保

(明治学院オルガニスト)

東京藝術大学及び同大学院修士課程でオルガンを専攻し、オランダ政府給費留学生としてアムステルダム・スウェーリンク音楽院で学ぶ。ベルギー・ブルージュ国際コンクール・オルガン部門、オランダ・シュニットガー国際オルガンコンクールに入賞。明治学院オルガニスト、明治学院大学講師として後進の指導にあたり、国内のみならずヨーロッパ各地での演奏活動を精力的に行っている。バロック時代の音楽のほか、即興演奏を得意とする。

10/23
[fri]



書物のなかの 祈りと美

～ヨーロッパ中世彩飾写本の世界～

高木 麻紀子

(本学 文学部芸術学科准教授・博士[美術])

東京都出身。東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。ストラスブール大学 Master 2 Recherche (研究修士) 課程修了。東京藝術大学大学院美術研究科博士課程修了。専門は西洋中世美術史、西洋工芸史。主な著作に「ガストン・フェビュスの『狩猟の書』挿絵研究」(中央公論美術出版、2020年、第37回淡沢クローデル賞奨励賞受賞)、「キリスト教文化事典」(丸善出版、2022年)、「西洋中世文化事典」(丸善出版、2024年) ほか。



[コーディネータ] 永野 茂洋 (明治学院 学院長)

東京都出身。明治学院大学元教養教育センター教授。同大学名誉教授、学院長。専門は旧約聖書学、古代イスラエル思想史。著書・論文に「現代聖書講座—聖書の風土・歴史・社会」(共著)、「古代オリエントにおける長老像」、「神を見るイスラエルの長老たち—出エジプト記24章9-11節」、「ジャコメッティと顔」など。

時 間 全日 18:30～20:00

受講料 4,500円 (全3回)

会 場 明治学院大学 白金キャンパス

※受講者には別途、教室をお知らせします。

お問 合せ

明治学院大学 社会連携部 社会連携課 〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

TEL : 03-5421-5247 (平日 9:30～16:00) E-mail : mpc@mguad.meijigakuin.ac.jp

お申込み・詳細情報は
こちらから

